



毛皮で衣類を作るのは女性の仕事でした。ビーズや刺繍などの装飾が施されたものもありました。

また、植物の採集も女性の役割でした。ハマニンニクなどの草は、多彩な形の籠や袋物の材料となり、ベリー類は食卓に彩を添えました。

トナカイ毛皮製ブーツ／マダガン州／
2004年 松下明子氏撮影(共同通信社提供)



ハマニンニク製籠／当館蔵

ベリー類の採集／コリヤーク自治管区／
2002年 大島稔氏撮影



関連事業

●7/15(土)

講演会「コリヤークのことばと文化」10:00-11:30

講師 呉人 恵氏(富山大学)

講習会「コリヤークのビーズ細工」13:30-16:00[定員20名]

講師 A.ニコラエヴナ氏(コリヤーク文化伝承者)

●7/16(日)

講座「北太平洋地域の踊りと音」10:00-12:00

講師 大島 稔氏(小樽商科大学)

甲地 利恵氏(道立アイヌ民族文化研究センター)

* * *

●7/15(土) 展示解説会

●8/19(土) 講座「もう一つのトナカイ遊牧」

●9/23(土・祝) 講座「カムチャツカのサケと先住民文化」



トナカイに塩を与える子ども／マダガン州／
2004年 松下明子氏撮影(共同通信社提供)

協 力

大島 稔氏 呉人 恵氏

永山ゆかり氏 池田貴夫氏

共同通信社



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

◆指定管理者:財団法人北方文化振興協会

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1(道立オホーツク公園内)
Tel. 0152-45-3888, Fax. 0152-45-3889, <http://hoppohm.org>

第21回特別展 一環北太平洋の文化 I

コリヤーク

ツンドラの開拓者たち

KORYAKS - Pioneers of the Tundra



平成18年7月15日(土)～10月9日(月・祝)

開館時間 9:00～17:00(10月は9:30～16:30)

休館日 10/2(月)

観覧料 一般 450(360)円

高校生・大学生 150(120)円

小学生・中学生 無料

※()内は10名以上の団体料金

北太平洋地域の先住民文化を紹介する4回シリーズの第1回目として、コリヤークの文化を取り上げます。

コリヤークは、ロシア、カムチャツカ半島とその周辺地域に居住してきた先住民です。おもな生業の違いから、海岸コリヤークとトナカイ・コリヤークの二つのグループに分けられます。



アザラシの捕獲／コリヤーク自治管区／1997年 大島稔氏撮影



アザラシ毛皮製ブーツ／当館蔵

海岸コリヤークのおもな生業は、海獣狩猟と漁撈でした。海獣類の肉や脂肪は食料や燃料、皮は靴底や紐の材料として、自家用のほか、トナカイ・コリヤークとの交易品としても利用されました。

また、夏から秋にかけては、遡上してきたサケ類を大量に捕獲し、乾燥して冬の食料としていました。



サケを捌く女性／コリヤーク自治管区／1997年 大島稔氏撮影

トナカイ・コリヤークは、家畜トナカイの肉や毛皮を徹底的に利用する文化を作り上げました。このトナカイ遊牧文化によって、内陸のツンドラをも生活の舞台とすることができるようになったのです。



トナカイ毛皮製帽子／当館蔵



トナカイ・コリヤークには、トナカイの誕生を祝ったり、放牧中の安全を願うためのさまざまな儀礼がありました。儀礼の際には、聖なる火起こし道具で火を起こし、＜主＞への生贄としてトナカイを捧げました。

トナカイ・コリヤークの衣類や移動式住居の覆いはトナカイの毛皮で作られていました。また、茹でたトナカイ肉をおもな食物とし、長距離を移動する際にはトナカイ橇を使っていました。



トナカイ・コリヤークの移動式住居／マガダン州／2004年 呉人恵氏撮影



トナカイ毛皮製の衣類を身にまとう男性／マガダン州／2004年 松下明子氏撮影(共同通信社提供)



儀礼具／当館蔵